



H18. 2. 10 1179
 静岡県漁業協同組合連合会
 ☎054-254-6011 Fax054-253-9343
 編集・発行 = 指導部 漁政課
 URL: <http://www.jf-net.ne.jp/sogyoren/>

1. 伊東魚市場に今期初ブリ12トンが水揚げ

伊東魚市場に2月5日、定置網にかかったブリ約12トンが水揚げされました。まとまったブリの水揚げは今シーズン初めてとなり、ブリの大漁に市場は活気づきました。

この日水揚げされたのは、富戸沖の定置網にかかった約5トンと川奈沖の定置網にかかった約7トンで、昨年に比べ1ヶ月ほど早い水揚げとなり、1尾平均約10kgの良型で、1kg当たり1,500円ほどの値が付けられました。なお、伊東沖のブリ漁は、例年5月頃まで続きますが、引き続き好漁となるよう期待されます。

2. 平成17年の海難隻数2,482隻 死亡・行方不明者121人

海上保安庁では、平成17年における海難及び人身事故の発生と救助の状況(確定値)をまとめました。

それによると平成17年の海難船舶隻数は2,482隻で、前年に比べ401隻減少し、また海難による死亡・行方不明者数は121人で、前年より34人減少しました。

海難隻数を用途別にみるとプレジャーボートが874隻(前年比109隻減)で最も多く、次いで漁船809隻(同186隻減)、貨物船358隻(同47隻減)、遊漁船111隻(同32隻減)の順となり、プレジャーボート、漁船及び遊漁船で全体の約7割を占めました。漁船の海難は相変わらず多いものの、昨年は大幅に減少しました。

海難種類別では、衝突が892隻(同115隻減)で最も多く、次いで機関故障が346隻(同31隻減)、乗揚げが339隻(同6隻増)で、海難に伴う死亡・行方不明者数の用途別内訳は、漁船が67人(同9人増)で最も多く、次いでプレジャーボートが23人(同6人減)となりました。

海難原因の約8割は、人為的要因を原因とするものが占め、漁船では、見張不十分を原因とする衝突が最も多く、次いで操船不適切を原因とする衝突の順となったほか、遊漁船においても見張不十分を原因とする衝突が多いことが分かりました。

3. 食料品消費モニター調査結果まとまる トレーサビリティの認知度高まる

農林水産省はこのほど、食品の安全性とトレーサビリティ・システムについて、平成16年度食料品消費モニター第4回調査(平成17年3月、食料品消費モニター1,021人を対象に調査し、994人より回答)結果の概要を発表しました。

農林水産省の食品の安全に関する取り組みの信頼度について「ある程度は信頼している」が最も多く70%、次いで「かなり信頼している」14%、「あまり信頼していない」12%という結果となっています。「かなり信頼している」と回答した割合をみると年齢が高い傾向にあります。

食品の安全性についてどう感じているかについて、家庭での取扱い方についての安心感が極めて高いのに対して、輸入農産物、輸入原材料等に対する安心感は極めて低くなっています。

食品のトレーサビリティについて、「大体のことは知っている」と回答した人の割合が

安全・安心な水産物供給と活力ある漁業づくりに努めよう

自立漁協の構築に向け合併・事業統合を進めよう

57%と多く、「知っている」人が前回調査(平成15年度)よりも30%も増加しました。

また、食品のトレーサビリティを普及させることは、食生活において重要だと思うかとの問いに対し「重要である」、「どちらかといえば重要である」と回答した人に、食品のトレーサビリティ導入の効果として何を期待するかとの問いに、「生産工程の透明性が確保されること」と回答した人の割合が最も高く77%で、前回調査と比べると、「安全・安心を感じられること」を選ぶ人の割合が減少しました。

4. 独占禁止法・食品表示研修会開催のお知らせ

県水産流通室では、市場の活性化を図り、取引の基本ルール及び適正な食品表示に対する認識・理解を深めてもらうため、独占禁止法及び食品表示研修会を次のとおり開催します。お知らせします。

開催日時・場所

日時	会場	地区
2月20日(月) 13:00~	県水産試験場本場	中部
2月21日(火) 13:00~	県水産試験場浜名湖分場	西部
2月22日(水) 13:00~	静浦漁協	東部

研修内容： 独占禁止法研修 = 独占禁止法の概要、事例解説 講師：公正取引委員会 中部事務所 食品表示研修 = JAS法、景品表示法 講師：県民生活室

問合せ先：県水産流通室 TEL:054-221-2694

5. 新刊図書紹介 「新魚病図鑑」 畑井喜司雄ほか監修

緑書房では、「月刊養殖」で連載中の魚病紹介ページをベースに作成されていた「魚病図鑑」を大幅に改訂した「新魚病図鑑」をこのほど発刊しました。

「魚病図鑑」が発行された当時には、養殖業界でも知られていなかった新たな疾病が、その後になって増えたり、逆に現在ではほとんど発生しなくなった疾病もあり、また養殖魚種の変化も顕著となっています。こうしたなか「新魚病図鑑」は、現在の状況に合わせた修正が加えられ、それに伴いウイルス性疾病を中心に120種の疾病を新たに追加したほか、日本国内の主要養殖魚28種の234にも及ぶ疾病が網羅されています。

本書は、魚病研究に携わる人だけではなく、水産養殖関係者とその関連企業および学生など、魚に関するすべての人の座右の書として利用できる図鑑となっています。

価格：16,800円(税込) 問合せ先：緑書房 TEL:03-5281-8200

6. 諸会議・日程(2月14日(火)~2月27日(月))

- 既報分省略 -

2月16日(木) 県信漁連 = 理事会 (県水産会館)

2月21日(火) 県漁連 = 水産しずおか首都圏トップセールス事業

実行委員会・幹事会合同会議 (")

" 県漁連 = 密漁防止研修会 (浜名漁協)

2月23日(木) 県漁業共済組合 = 理事会 (県水産会館)

2月24日(金) 県桜えび漁業組合 = 通常総会 (伊豆の国市)

2月25日(土) 県おさかな普及協議会 = チビッコ料理教室 (静岡市)

2月27日(月) 県遊漁船業協会 = 漁場利用検討協議会・御前崎沖部会 (県水産会館)

漁協系統事業の全利用運動を進め組織の強化を図ろう